

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(4 年計画の 4 年目)

1. 研究課題

(和文) ヨーロッパ現代思想と政治

(英文) European Contemporary Philosophy and Politics

2. 研究代表者氏名

市田良彦

3. 研究期間

2011 年 04 月 - 2015 年 03 月 (4 年度目)

4. 研究目的

本研究の目的は、ヨーロッパ現代思想と「政治」の関係を問い直すことにある。ここでヨーロッパ現代思想とは、1968 年前後のフランスを中心に勃興し、その後「ポストモダン」ないし「ポスト構造主義」などとも呼ばれてきた思想的諸潮流（フーコー、ドゥルーズ、デリダら）を指す。「新左翼」の興隆とも軌を一にして現れたこうした論者たちは、1990 年代以来、ソ連圏の崩壊と EU の成立という情勢の変化にともない、あらためて「政治」との関係を主要な考察対象としつつ新たな展開を見せている。その事情は日本でも、バディウ、バリバル、ネグリ、ランシエールといった思想家たちの仕事を通じて知られている。こうした動向はいかなる思想的系譜の上に立ち、いかなる「政治」状況のなかから出てきたのか。1968 年以來のヨーロッパの現代思想において、そもそも「政治」とはどういう営みとして把握され、「思想」や「哲学」との間はいかなる理論的・実践的な関係が提起されてきたのか。本研究はこうした問いを通じて、ヨーロッパにかぎらず広く政治をめぐる思考の現状に介入することを目指している。

5. 本年度の研究実施状況

今年度、本研究班では計 8 回の研究会を行ない、計 4 回の公開講演会・公開セミナーを開催した。研究最終年度にあたる今年度、研究会はもっぱら共同研究の最終報告書となる論文集を来年度中に公刊することを目指して、班員の研究論文の構想を発表し、その内容を全員で検討することにあてられた。その際、共同研究の三つの主要な問題系となるマルクス主義（政治と経済・歴史の関係という問題）・精神分析（構造と主体／主体化という問題）・政治哲学（とくに代議制民主主義を規範化する一連の現代政治理論との対質）を念頭に、論集全体の構想を練り上げている。また、11 月 13 日には桂秀実とハリー・ハルトゥーニアンを招いた日本資本主義論争をめぐるシンポジウム、11 月 14 日にはクリスティン・ロスを招いたパリ・コミューンについての講演会を開催、さらに 1 月 12 日には、市田良

彦、エチエンヌ・バリバル、ブルーノ・ボスティールズを講師として、本研究班の締めくくりを飾る国際シンポジウム『政治・主体・〈現代思想〉』を組織した。また、1月17日には、上田和彦、佐藤淳二、佐藤吉幸ら班員と、ガブリエル・ラディカ、およびバリバル本人が討議する研究会「〈われわれ〉がエチエンヌ・バリバルの読解に負うもの」を開催し、現代政治哲学の諸問題について、実り多い議論を行なうことができた。

8. 共同研究会に関連した公表実績

【主な出版 著作・論文】小泉義之『ドゥルーズと狂気』（河出書房新社、2014年）、立木康介「マルクスに回帰するラカン（一九六六-七三）」（『思想』2015年1月号）、佐藤嘉幸（吉幸）「立憲デモクラシーの危機と例外状態」（『思想』2014年12月号）【主な出版 翻訳】ルイ・アルチュセール／市田良彦・王寺賢太訳『政治と歴史』（平凡社、2015年）、ミシェル・フーコー／市田良彦・上尾真道・信友建志・箱田徹訳『悪をなし真実を言う』（河出書房新社、2014年）、ジャック・ランシエール／市田良彦・上尾真道・信友建志・箱田徹訳『平等の方法』（航思社、2014年）【国際シンポジウム】「ポスト68年の思想と政治—〈階級闘争〉から〈社会運動〉へ?」（2014年2月1日、於：京都大学人文科学研究所、司会：市田良彦／長原豊、報告：長崎浩／桂秀実／ギャビン・ウォーカー）「Pourvu que ça dure...：政治・主体・〈現代思想〉」（2015年1月12日、於：京都大学百周年時計台記念館2F国際交流ホール、登壇：市田良彦／エチエンヌ・バリバル／ブルーノ・ボスティールズ）【国際講演会・研究集会】「革命・歴史・想像力」（2014年11月13日・14日、於：京都大学人文科学研究所、講演：ハリー・ハルトゥーニアン／クリスティン・ロス）、「Ce que nous devons à la lecture d' Étienne Balibar : Individualité et communauté, de Rousseau à Blanchot」（2015年1月17日、於：京都大学人文科学研究所、発表：上田和彦／佐藤淳二／佐藤吉幸／ガブリエル・ラディカ、コメント：エチエンヌ・バリバル）【電子データベース】archives.mai68（フランス68年5月関連一次資料の電子化・公開プロジェクト） <http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~archives-mai68/index.php>

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機 関 数	参加人数					延べ人数				
		総 計	外 国 人	大 学 院 生	若 手 研 究 者	女 性 数	総 計	外 国 人	大 学 院 生	若 手 研 究 者	女 性 数
所内	1	4	0	0	0	1	30	0	0	0	5
学内(法人内)	2	35	2	15	2	1	95	8	90	20	5
国立大学	7	9	2	0	1	0	79	6	0	10	0

公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学	9	30	5	30	15	0	120	15	90	75	0
大学共同利 用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法 人等公的研 究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	5	5	5	0	0	2	6	6	0	0	2
その他	1	1	35	0	0	0	10	50	0	0	0
計	25	84	49	45	18	4	340	85	180	105	12

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	40 (10)
国際学術誌に掲載された論文数	8 (2)

※ () 内には、拠点外の研究者による成果 (内数) を記載

論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合

役割	
総論文数	0
国際学術誌に掲載された論文数	0

※ () 内には、拠点外の研究者による成果 (内数) を記載

高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合

掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由			
掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
思想	3	マルクスに回帰するラカン (一九六六・七三)	立木康介
現代思想	4	人格障害のスペクトラム化	<u>小泉義之</u>

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

